

# 巻 頭 言

教職課程センター所員 北川 浩子

「令和」という新しい時代の始まりを感じる中、教職課程センターは3年目を迎えました。センター設立当初の慌ただしさはなくなりましたが、その代わりに時間が許す限り勉強に励む学生で活気にあふれています。わずか3年でこのようになるにはそれまで行われてきた教職教育への支援が基盤となっています。そこで設立までの経緯や歩みを少しご紹介したいと思います。

城西大学ではセンター設立以前から蛭川先生が教員になりたいと切に願う学生に対して教員としての資質・能力や実践的指導力を向上させるために「教員養成サークル」という形で支援されていました。さらに、教職科目担当として着任された新井先生も加わり支援体制が強化されました。全学的な組織としての支援体制の必要性を先生方が考えている中、平成27年12月に出された「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」の答申において教職課程の質の保証・向上の一環として全学的に教職課程を統括する組織の設置について努力するように示されました。両先生の思いが、答申の見解と一致し、平成29年4月に城西大学教職課程センターが設立されました。

設立から今日まで、教職課程センターは教育免許法と同施行規則の改定に伴う教職課程再課程認定への対応と教務課が行っていた教職課程における様々な業務や免許更新講習などの行事の引き継ぎに追われていた感はありません。しかしそのような状況でも先生方は学生たちに対する支援の手を緩めることなく、相談員制度を設置し、教職科目に止まらず、一般教養科目、教科科目、論文、個別面接、集団面接等、学生の資質向上のために徹底した指導強化を行っています。先生方の熱心な指導や学生との信頼関係は学部を問わず教員を目指す学生の励みとなっており、それが教員採用試験の合格実績につながっていると思います。

このようにセンターとしての体制がほぼ整った状況で蛭川先生と新井先生の退職を聞かされました。この3年間、先生方の教職への考え方や思いを身近で学ばせていただいたことに心より感謝しています。そして教職センター紀要第4号は蛭川先生の退職記念特集号になります。先生には長年にわたる教員人生を語っていただきます。また卒業生の方々に先生との思い出をお話ししていただけることになっています。人との出会いの大切さや教員としてすべきことを教えられることでしょうか。教員を目指している学生たちにぜひ読んでもらいたいと思います。

最後になりましたが、教職センターの活動を今後も充実させていくために、皆様方のご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。